

1. 金融経済教育について

近年の金融制度改革の動向や金融政策の変化を鑑みると、金融および金融政策には、国民各人の資産の形成を支援するという機能の構築が求められていることは明白である。一方、資産形成の本質は、個人のより安定した生活の保障を目指しながら、同時に社会全体の利益、福祉とも確実に連携し、最終的にわが国の経済の活性化を支援する点にあり、政府による適正なリードが前提になれば、その達成は困難である。そして何よりも、その成果の社会的還元が不確実では真に効果的な金融政策にはなり得ない。この点は、金融や資産形成を教示する時に特に強く意識し、肝に銘じておかねばならないことである。同時に、個人の資産形成を金融の一環として機能させるのであれば、他者との共生と共存、社会への還元という理念も当然組み込まれていなければならないが、その際、「金融リテラシー」という概念を基本軸として設定することが肝要となる。「金融リテラシー」とは、我々が生きていく上で必要になる日々の家計管理・資産形成・金利やローンの知識など、人生においてお金とうまく付き合うための知識やスキル、判断力の総称であり、そのメリットには以下のような点が考えられる。

- 1 将来の資金計画が立てやすくなる。
- 2 家計の収支改善が期待出来る。
- 3 資産運用における判断力を育成することにつながる。

今回、金融経済教育の授業実践の機会を頂いてから事前準備を進める中でまとめていった自分の考え方とは、金融リテラシーを前提とする中で、中長期的視点に立った、社会への貢献も視野に入れた資産形成を説くことの意義であり、かつ、それを踏まえた上で、資産形成の目的を、国民一人一人の安定した生涯設計はもとより、総括的には国家全体としての利益につなげて行くことと位置づけ、そのことを生徒とともに確認して行くことの必然性であった。そのためにも個人的な資産形成と国家社会全体の利益の双方をつなげる仕組みとして資産形成を学ぶという点を強調しながら、「公共の福祉」の視点に立ち返った検証も同時に行う。授業計画においては、この点を特に意識して立案した。

2. 授業計画全般について

まず初めに、「1.」で述べた、「個人的な資産形成と国家社会全体の利益の双方をつなげる仕組みとして資産形成を学ぶという点を強調しながら、「公共の福祉」の視点に立ち返った検証も同時に行う」という点を実践するために、単元全体を貫く問いとして「金融は、社会全体の利益の形成を目指す時にどうあるべきか」という主題を置き、計画した授業全体を通し、一貫した問いかけ（テーマ）が出来るようにした。

授業は計5時間の計画で実践し、5時限目を研究授業として公開した。

5時間の計画は以下のとおりである。

- 1 限目 「金融の役割、銀行の役割、中央銀行の役割について理解する」
- 2 限目 「市場経済における投資の役割を理解する」
- 3 限目 「金融商品について学ぶ。金融商品が持つリスクとリターンについて理解する。
金融商品の3つの特徴を理解する」
- 4 限目 「資産形成について理解する。安定した資産形成を目指すことと金融リテラシーを高めることの相関関係について考察する」
- 5 限目 「資産形成の意義と社会への貢献との相関性について理解する」

単元として計画した授業全体を通し、付帯的に以下の5つの目標を設定した。

「金融の役割、銀行の役割、中央銀行の役割について理解する」

「金融商品の特徴を学び、金融商品のリスクとリターンについて理解する」

「投資と投機の違いを理解し、投資が持続可能な社会の形成に寄与する仕組みであることについて考察する」

「安定した資産形成を目指すことと金融リテラシーを高めることの相関関係について考察する」

「資産形成の意義と社会への貢献との相関性について理解する」

細かい問いかけや目標を設定することが必ずしも確実な成果をもたらすとは断定出来ないが、限られた時間内で当初の目的を達成するためには、やはり詳細な目標は必要であり、授業を見て頂く方々からも検証や確認がしやすくなると判断し、上記のような展開を計画した。

授業に際しては、学校用意パソコン（原則一人一台、各学校の生徒数等により台数には差異あり）を使用し、コミュニケーションツールとしては Teams、Forms、PowerPoint 等を利用した。

3. 研究授業について

研究授業においては、指導目標を「資産形成の意義と社会への貢献の相関性について理解する」と設定し、授業全体を通したメインエスチョン（主たる問いかけ）として「投資がなぜ社会貢献ともいえるのか」を据えた。その上で、サブクエスチョン（補助的問いかけ）で、生徒へ問いかけながら、最終的にグループ討議でメインエスチョンに対する回答（彼らなりの）をまとめさせるという流れを取った。用意したサブクエスチョンは

- ①「資金の準備量は投資の成果に影響するか」
- ②「投資成果によって資産が増えた時にどういう形で社会に還元するか」
- ③「社会貢献に寄与することが出来る投資とはどのようなものか」

であり、③をグループ討議のテーマとした。

導入：初めに、前時までに学習した「投資」について振り返りを行い、投資は個人の資産を増やすためだけでなく、投資で今必要としている国や企業にお金を使ってもらうことで社会的課題の解決や経済成長を支える役割を担う意義があることを確認した。

展開1：次に、社会貢献度や社会への影響を踏まえ、投資先や投資内容を選定する動きを加速させる「SDGs 投資・ESG（環境 Environment 社会：Social ガバナンス：Governance）投資」について補足。SDGs 投資・ESG 投資は、差別や貧困、環境、教育などの課題解決を図る活動を行う企業体などへの投資の優先度を上げることで、アルコールやギャンブル、たばこなどを扱う企業は投資対象としない金融商品が存在することも確認した。

展開2：次に、「投資を公共の福祉（社会全体の利益につながる）の観点から考えた場合、投資はどうあるべきか」という問いかけを行い、グループ活動で討議、意見をまとめさせた。その際、1～4時間目に学習した資料やインターネット検索での情報収集、収集した情報の整理と活用を意識して進めるよう指示した。

ワーキング：以下のようなそれぞれのスタイルで活動。

- 意見を出し合いながらまとめを進めるグループ
- インターネットで SDGs 投資や ESG 投資の具体事例を確認しながら話し合いを行うグループ
- 一人の意見にそれぞれの意見や考えを加えながら、全体の意見としてブラッシュアップしていくグループ

まとめ：意見がまとまったグループから Forms にまとめた意見を入力し全体で共有・確認した。

最後に、投資は 個人の資産形成だけでなく、投資先の企業や団体の活動を通して個人では難しい社会的課題の解決や、持続可能な社会の実現に向けた取組みに参加できる仕組みであること、金融に限らず様々な事柄において、個人の利益だけでなく社会の発展や利益の拡大につながるかを考え行動して欲しい旨まとめとして伝達し、全5時間の授業を終えた。

4. 使用教材について

1 限目においては、教科書（実教出版 高校現代社会）、資料集（第一学習社 最新現代社会資料集）を用いながら「あなたと銀行のかかわり 動画で学ぶ銀行の仕事」を視聴して、金融の基本的事項の確認を行なった。以降4時限までは、「シリーズ教材お金のキホン マナブとメグミのお金のキホン BOOK」「はじめての生活が豊かになるお金の運用」「知っておきたいお金の話」を活用しながら、さらにスライド投影などを交えて要所や節目における説明補填に努めた。全銀協の教材はとてもわかりやすく、イラストや資料等も適正に配置されていて、生徒の興味関心を惹くには十分なものだった。今後も教材として活用して行きたいと考えている。

5. 授業前後の生徒の様子について

金融に関しては、本校では3年の政治経済選択者が学習する領域であるが、内容に関しては、常に選択者以外の生徒にも学んで欲しいものであることは間違いなく、今回2年生がこの分野に触れることが出来た点は良かったと実感している。計画していた全授業を終えた後の生徒の感想からも、お金の流れを通して、現在の社会情勢を考えることの重要性に気付いた様子も感じ取れ、今後の学び、さらに人生設計において役立てて欲しいと思う。

また、「公共」の学習が始まることを見据えれば、校内においても履修計画を再考する良い機会であるようにも考えられる。より一層の研修を積み、研鑽に努めたいと強く思う次第である。

【生徒の感想（抜粋）】

- ①まだ学生で働いた経験がないことから、金融について自分とは関係ないと思いがちだったが、自分の将来のために知っておくべきことをたくさん知ることができたと思う。全体を通して、自分や社会の将来を長期的に考えた資産運用が大切だと感じた。政府の金融政策など、金融に関わる情報に積極的に触れるようになったことが、授業を通しての自分の一番の変化だと思う。金融に対する関心を高校生の今も、自立してからも持ち続けていこうと思った。
- ②教科書や本を読むだけでなく、新聞やニュースなどから社会情勢に関する情報を得て、投資や社会について意見を持つことが大事だと思った。興味関心がないから知らなくて良いのではなく、主体的に情報を集め、学習しながら一人一人が経済活動をしていくことが重要だと思った。
- ③「投資」と聞くと大人が行うことで自分にはまだ遠い未来の話という印象があったが、授業を通して他人事ではなく、将来のために今のうちから計画を立てておかなければならないと思った。自分の老後を支えるのは今の自分だと思うので、お金を無駄遣いせず、またお金についてもっと知識を身につけていきたいと思った。
- ④「金融リテラシー」の重要さを痛感した。これから働いて自立していく時、お金の使い方を適切に判断するための知識を持ち、なおかつ社会にとってプラスになる行動をするには金融リテラシーが必要だ。税金や保険など国と国民の信頼関係で成り立っている制度も、投資など企業と国民の信頼関係で成り立っている制度もリテラシーが必要であり、自分の生活のためであることはもちろん、社会貢献としても適切かを判断し、SDGs など世界的な課題解決につながるかを意識したいと強く感じた。税金の使い道やコロナ禍における政府の対応など、金融に関して様々な意見があるが、まずは根本をしっかりと知ることが課題解決に近づくのではないかと思った。
- ⑤金融と聞いたときは銀行に関して学ぶのだろうと思っていたが、投資や資産形成など学ぶことができて良かった。個人的に資産形成などに興味があったので授業は楽しかった。金融に関する学習にておいて、「投資はなぜ社会貢献ともいえるのか」の問いが特に印象に残っている。自分の生活のためだけでなく、弱者救済など社会的課題の解決へ寄与することも出来るため、投資は社会経済の中で必要不可欠なものだと思った。
- ⑥金融に関する学習は、あまり身近なものではないうえに、投資については教科書の記載内容が少ないこともあり理解しにくかった。しかし、分からないからこそ自らインターネット等を用いて調べるといった学習方法が取れたので良かったと思う。将来自分が投資をするかは分からないが、今回学んだことをしっかり今後に生かしていきたい。
- ⑦金融と聞くと銀行など金融機関のイメージがあったが、お金に関するほとんどのことが金融で、私たちに身近な金融問題が多いことが分かった。老後の年金問題も、投資での社会への貢献も、結局は自分がどうお金を使うのか自分で判断しなければならず、一人一人の問題なのだろうと思った。学生である私たちも他人事と思わず、今のうちからお金の使い方を考えながら人生設計していくべきだと思った。